

第1回 魚津市立西部中学校 運営協議会 記録

日時：令和7年5月15日（木）14:00

会場：魚津市立西部中学校会議室

1 開会あいさつ

教育をとりまく環境は日々変化している。不登校、SNSなどの問題に加え、学校は、「部活動の地域展開」「教員の働き方改革」等に対応していかなければならない。子どもたちの教育活動は、家庭や地域で協力していかなければならないが、それぞれの認識にずれが生じることもある。この場には、その家庭や地域の様々な立場の人の声を聞ける人が集まっている。意見交換し、学校教育の力になっていきたい。

2 魚津市学校運営協議会の概要説明

3 委員紹介

4 会長・副会長の選出

5 協議

(1) 今年度の学校教育方針について（校長）

- ・ チーム担任制の説明
- ・ 不登校の現状

【質疑・意見交換】

- ・ チーム担任制について、教員はどのように感じているのか？
 - チーム担任制について、昨年度、教員を対象に行ったアンケートでは、96%の教員が「よかった」「必要な制度」と回答している。
- ・ 不登校には様々な要因があるが、いじめによる不登校は気をつけてもらいたい。
- ・ 不登校は悪いことではない。無理矢理学校に行かせるべきではないが、ずっと不登校が続くことが子どもにとってよいことなのか。3年間の間に自然に登校できるようになってほしいと思う。
- ・ 不登校は小学校のときから続く場合もある。小学校のときから、不登校児童を見守る取り組みは？
 - 定期的に小中の生徒指導主事が情報交換を行っている。また、2年前からオンラインで小中の児童生徒が意見を交換するという取組を行っている。

- ・ せっかく個別学習室があるのだから、全く登校しないのではなく、個別学習室を利用してほしい。
- ・ 地域と親との繋がりが薄くなってきていると感じる。
- ・ 地域活動をするにあたり、家庭の理解がないように感じる。子どもが自分で判断をするような案内の仕組みを考えていきたい。
- ・ 保護者の考え方の変化を感じる。子どもはイベントに出たいが、親が「出るな」という。子どもの顔が見えづらいし、親の顔もわからない。親子の仲を深めようと、月に1回、地域で夜鍋談義のようなものを催している。

(2) 地域学校協働活動について（校長）

- ・ 農業に興味をもっている生徒が地域の力を借りて農業をする、子どもが好きな生徒がボランティアで保育園などに行くなどの長期的な体験活動が考えられる。
- ・ 高齢化が進み、人手が欲しい今このときこそ、中学生が「地域活動の若き担い手」「地域の活力」になってもらいたい。
- ・ 生徒の希望も把握しながら、学校で方策案を協議した上で、委員の皆様のお力をお借りしたい。

【質疑・意見交換】

- ・ 土日に、公民館のボランティアに来てもらえるとありがたい。
- ・ 学校で子どもたちに「こういうボランティアがある」という紹介はしているのか？
→ 生徒への案内を担当する教員がいる。
- ・ 「ボランティアポイント」をつけ、子どもが成果を実感できるようにするとよいのではないか
- ・ 公共施設を使用する際のマナーアップも大切なことである。

(3) 令和7年度学校運営協議会の計画について

(4) その他

6 閉会